

【問 題】

首都東京は、都市機能の集中、集積を競争力の源泉とし、世界を代表する都市として成熟を遂げました。一方、都は、東京が都市として成熟を遂げる過程で、多くの課題を抱え、また、今後、先鋭的に現れる新たな課題にも、的確に対応していく必要があります。このような状況の下、都の職員は、首都東京を現場（フィールド）として、どのように困難に立ち向かい自ら道を切り拓いていくべきか、あなたの考えを述べてください。

【解答例】

東京都はわが国の首都として発達し、現在では政治・経済・文化などの各方面での集積が進むことで、いわばわが国の頭脳あるいは心臓部ともいえる重要な地位を占めている。特に 2016 年にオリンピックが東京で開催され、それに向けた取り組みである「10 年後の東京」が完成すれば、東京の成熟・美しさがより増し、アジアの中心的な都市として、また世界的にも重要な都市として今後も発展していくと考えられる。

その一方、東京は様々な課題を抱えている。それらは東京という都市の性質上、二つに分けて考えることができる。一つは多くの人口・産業が集中することによる土地問題、交通問題、環境問題など、東京のみならず大都市に共通にみられる問題である。もう一つは、東京に集中している経済力をいかに発展させてわが国の原動力としていくか、わが国の中心都市である東京で他の自治体のモデルとなりうる先駆的な施策をどのように進めていくかという、首都東京としての独自の課題である。この両者は独立のものではなく、東京都が抱えるさまざまな問題を、先駆的な施策により解決することで、それがわが国全体にも波及して地方での問題解決につながり、その活性化につながるであろう。

このように大都市としての問題、首都としての問題に直面している東京都の職員には、独自の役割が求められる。つまり変化の激しい大都市としての東京で働く以上、継続性や安定性といった公務員全体に求められるものに加えて、常に生じる変化に対応できる柔軟性、さらに変化の先を読んでいくことのできる予見性が求められる。さらに、東京がわが国の原動力ともいえる地位にある都市であり、また国際的都市である以上、東京都の職員は単に東京都だけのことを考えるのではなく、わが国全体に与える影響、そして国際的に与える影響をも踏まえて東京都の施策を行っていくことのできる視野の広さを備えていく必要がある。東京都の職員は、こうした「柔軟性」「予見性」「視野の広さ」を持って問題に取り組んでいくことが求められている。

また、変化に対応できる柔軟性が必要になるとはいえ、個々の東京都職員が取り組むべき課題について専門的知識を身につけ、問題解決のために粘り強く努力するという継続性はもちろん必要である。しかし、それが大都市の変化に適応できない硬直性につながったり、他の分野やわが国全体、世界に対する視野を見失ったりしてはいけないうら。専門的知識を深めつつ、東京という大都市全体の中で自身が取り組むべき課題を広い視野をもって客観的にとらえ、その上で問題解決のために東京都と

いう枠にとらわれず都民，民間企業，特別区・市町村，国，他の県など，広範囲の主体と積極的に協力していくという「視野の広さと行動範囲の広さ」を備えて，変化に対応し新しい施策を打ち出していくことが必要である。

わが国の頭脳・心臓部である東京都が直面する問題は，同時にわが国の直面する問題でもある。東京都の職員は，日々生じる新しい問題に常に広い視野から取り組み，広範囲の主体と協力して行動していくことで東京，さらにはわが国を変えていくことのできる「首都官僚」であるという意識をもち行動していくべきであると私は考える。

以 上